



2024.9.5

No. 368

MONTHLY

れんごう



<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 和田 英 浩

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 はくろウビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

被爆から79年

2024平和行動 in 広島・長崎に 北海道統一代表団を派遣

原子爆弾投下から79年目を迎える中、連合北海道・原水禁北海道・北海道友愛KAKKINは8月4日～10日、のべ73名を「北海道統一代表団」として広島・長崎に派遣した。

8月5日の平和ヒロシマ集会で主催者挨拶にたった連合芳野友子会長は、「ロシアはウクライナ侵略における核兵器使用を示唆する発言や隣国ベラルーシに戦術核を移転するなど、核戦争の危機がかつてないほどに迫っている」と述べ、「昨年12月の核兵器禁止条約第2回締約国会議では、核兵器のない世界の実現をめざす政治宣言が採択されたが、日本政府は第1回会議に続いて参加を見送った。日本政府には、唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向け、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を粘り強く続けるよう求めていく。核兵器廃絶は、決して核兵器保有国や被爆地だけの課題ではなく、今を生きるすべての人々が乗り越えるべき課題である。今回の平和行動を通じて、被爆地広島の核兵器廃絶に対する強い想いを、職場や地域に持ち帰り、運動として展開していただくことを期待する」と挨拶した。

8月8日の平和ナガサキ集会では、芳野友子会長の主催者挨拶の後、「若者からのメッセージ」として、第27代高校生平和大使23名が紹介された。連合北海道と北海道退職者連合で構成する北海道高校生平和大使派遣実行委員会が選出した、高佐安里さんと皆川舞奈さんも仲間とともに登壇し、被爆者や戦争体験者の方々から平和のバトンを受け継ぎ、世界に



ヒロシマ集会へ参加のみなさん

広げていく決意を表明した。

連合長崎から平和の思いとともに根室集会に向けてピースフラッグリレーとして、連合北海道佐藤



平和ナガサキ集会



ピースフラッグを受け取る
佐藤環樹副会長(右)

環樹副会長に旗が引き継がれた。「このフラッグは、今日ここにお集まりの多くの皆様の世界中の恒久平和への願いが込められた大変重要な意味を持つ貴重なフラッグである。来月開催の平和行動in根室では、一刻も早い北方領土の早期一括返還、日露平和条約の締結に向けた決意を改めて確認していただきたい」と力強く宣言した。

統一代表団は広島・長崎において30度を超える猛暑の中、ピース・ウォークに参加するなど、それぞれ学習を深めるとともに、広島では北海道独自企画として原爆死没者慰霊碑への献花、長崎では被爆地「淵中学校」への墓参、鹿児島島の知覧特攻平和会館への見学等も行った。

連合北海道はこれからも核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、職場や地域における核兵器廃絶運動に粘り強く取り組んでいく。

詳細はこちらから

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9297>



過去最大の50円の引き上げ 2024年度 北海道地方最低賃金 1,010円へ!

北海道地方最低賃金審議会は8月5日、2024年度北海道地方最低賃金について、現行の960円から50円引き上げ、1,010円とすることで結審した(発効日は10月1日予定)。

7月29日、連合北海道は第2回最賃対策委員会(森下委員長/連合北海道副会長)を開催し、2024年度北海道地方最低賃金審議会の改定審議が本格的に始まるにあたり、最賃審議会への姿勢を確認し、同日正午には連合北海道と連合北海道石狩地域協議会との合同で「昼休み集会」(北海道労働局前)を開催し、ヤマ場に向けて意思統一を図った。

雨の中で行われた「昼休み集会」では、主催者を代表して連合北海道の金子ユリ副事務局長(最賃審議会委員)が挨拶し、中央最低賃金審議会(中賃)で本年度の地域別最低賃金の目安(全ランク50円)が決まったことに触れた上で「過去最高水準の引き上げ額の一方、各ランク同一の目安であり、労働者側が求める地域間『額差』の縮小には至っていない」と課題を示した。また、今後の審議について「本集会の雨は物価高に泣く労働者の涙雨ではないか。連合北海道は、北海道ではたらく誰もが時給1,200円以上の早期実現に向けて全力で取り組む」と決意を述べた。

8月5日には3回目となる最賃審議会が開催され、2024年度北海道地方最低賃金を現行の1時間当たり960円から50円引き上げ、1,010円とすることで北海道労働局長に答申した。中賃が示した目安通りの50円の引き上げ額となったが、時給で示すようになった2002年度以降、最大の引き上げ幅となった。労働者側委員は、消費者物価指数の高止まりや、2024年春季生活闘争の時間給労働者の賃上げ結果、地域間「額差」是正の観点からも、中賃が示した目安額以上での結審を強く求めたが、労使各側委員の主張や金額の隔たりは大きく、公益委員見解が示される中、50円で結審した。



第2回最賃対策委員会

50円の引き上げで全労働者の3割近くの時給が改善されることとなるが、1時間当たり1,010円で1日8時間、月に20日働いたとしても月収約16万円、年収で約194万円。ここから税金や社会保険料などが引かれた手取り額は、最低賃金法第1条の「賃金の低廉なる労働者の労働条件の改善」が図られているとは到底言えない。最賃審議会において使用者側委員が目安額やそれ以下での結審を求め続けたのであれば、企業を支え社会を発展させる源は何なのか、その重要性を再認識する必要がある。

連合北海道は、改正される最低賃金の履行確保、法令順守、さらには中小・小規模企業の経営環境がより強固となるよう政府施策の早期かつ確実な実施と、9月から審議が始まる特定(産業別)最低賃金の引き上げを強く求めていく。

2024北海道最賃情報は [こちらから](https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9269)
<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9269>



2024年度北海道地方最低賃金改定に関する
談話は [こちらから](https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9267)
<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9267>



7月29日雨の労働局前での昼休み集会



「物価高に泣く労働者の涙雨」と訴えた金子副事務局長(右)

北海道へ2つの要請を実施

2025年度「道政に対する要求と提言」 「ラピダスの北海道進出に係る北海道に対する要請」

連合北海道は8月2日、鈴木直道北海道知事に対する要請を実施し、和田英浩事務局長から三橋剛副知事へ「2025年度道政に対する要求と提言」及び「ラピダスの北海道進出に係る北海道に対する要請」の2つの要請書を手交した。

和田事務局長は、「『道政に対する要求と提言』については、労働政策はもとより地域公共交通や社会保障制度、地方自治財政、教育など多岐にわたる。10月予定の道との意見交換では関係部局との活発なやりとりをしたい。また『ラピダスの北海道進出に係る道要請』については、道内の製造業の活性化、道内経済の活性化に繋がるものとして、労働組合としても応援していきたい。一方で、ラピダス社進出に伴う労働環境や人材確保、フッ素化合物等の排水問題など切実な課題も挙げられる。これらの課題解決に向け、先日も経済産業省に対し、道やラピダス社と連携するよう要請してきたところである。道としても、道内の更なる経済活性化に向けて誠意ある対応をお願いしたい」と挨拶した。

永田重人総合政策局長は「道への要求と提言」及び「ラピダスの北海道進出に係る北海道に対する要請書」の趣旨を説明し、「国策事業でもあるラピダス社の工場建設は今後より一層、工期厳守となり、過重労働あるいは法令が遵守されない可能性がある。人が犠牲になっての成功はあり得ない。北海道知事には、労働基準に係る法律を守るよう北海道労働局と連携を図るなど、リーダーシップを発揮してほしい」と要望した。

三橋剛副知事は、「中小企業はエネルギー価格や原材料の高騰で未だ厳しい状況にあり、道としても労務費の価格転嫁など支援に努めたい。デジタル化やゼロカーボン、GX、DXなどの新たな需要に道民の『稼ぐ力』を繋げるべく、道内への人材誘致や呼び戻し、氷河期世代や女性、高齢者の労働参画などにもしっかりと取り組んでい



和田事務局長から三橋副知事(右)へ要請書手交

く。ラピダス社に係る要請での労働環境については、ラピダス社や北海道労働局から法令違反があったとの確認は取れていないものの、いかなる状況であっても法令違反はあってはならない。ラピダス社の道内進出に伴い、雇用創出の期待が高まっている一方で、今回要請いただいた懸念事項については、国や関係市町村ときちんと協議していきたい」と述べた。

最後に和田事務局長は、「北海道の広大な土地で、道内における製造業の活性化や、ものづくりの発展に期待するとともに、道民の所得をあげていくといった労働政策を実現したい。今回要請した176項目の『道政に対する要求と提言』及び『ラピダスの北海道進出に係る北海道に対する要請書』の要請事項については、9月上旬までに全項目について回答いただきたい」と締めくくった。

「2025年度道政への要求と提言」

①良質な雇用創出と定着②地域産業の振興及び観光の推進③地域公共交通の確保④エネルギー・環境政策⑤社会保障制度⑥防災関連⑦自治体財政⑧消費社会⑨ジェンダー平等⑩教育⑪平和⑫人権など176項目の要望で構成し、重点要望を47項目とした。

「ラピダスの北海道進出に係る北海道に対する要請書」

北海道千歳市に進出するラピダス社の次世代半導体工場建設(2025年試作ライン稼働予定、2027年度に量産開始予定)に伴う課題をもとに取りまとめた。



報道陣が詰めかける中で挨拶する三橋副知事

北海道への要請行動の詳細はこちら

<https://www.rengo-hokkaido.gr.jp/archives/9277>



北の大地の戦争を語り継ぐ 留萌沖「三船殉難事件」講演会を開催

8月22日、留萌地域協議会は、「留萌沖『三船殉難事件』講演会～北の大地の戦争を語り継ぐ～」を留萌市中央公民館講堂にて開催し、連合北海道の荒木副事務局長、石田道民運動局次長を含む約80人が参加した。

講師の留萌市教育委員会生涯学習課学芸員の福土廣志さんから、当時の緊急疎開船三船について、樺太(サハリン)の引揚船として乗船者が老人・女性・子どもに制限されたため、三船あわせて約1,700名の犠牲者の大半が老人・女性・子どもだったこと、稚内で下船し難を逃れた昭和の大横綱・大鵬の誕生秘話、ソ連(ロシア)による条約違反の宣



講師の福土学芸員

戦布告と停戦後の侵攻、北海道への8月23日の上陸作戦候補地は留萌と釧路で、上陸作戦前日に起きた三船の悲劇だったことなどが説明された。

また、8月20日には三船



80人が参加した講演会

殉難事件で海底に沈んだ小笠原丸、泰東丸に最新技術を使ったソナー調査が留萌沖で行われ、調査にあたった東大名誉教授の浦環さんは「海に沈んだ2船を特定できたことから今後の遺品引揚などにつなげ、改めて人々の関心を引き起こすきっかけにしたい」と話した。参加の市民からも質問が出るなど、79年前の悲劇に思いをはせる講演会となった。

「留萌三船(さんせん)殉難事件」

終戦直後の1945年(昭和20年)8月22日、留萌沖で樺太(サハリン)からの疎開船3隻(小笠原丸・泰東丸・第2新興丸)が旧ソ連の潜水艦の攻撃を受け、合わせて約1,700人が犠牲となった事件。



留萌市黄金岬に立つ「樺太引揚三船殉難平和の碑」



9月の主な動き

- 9月 3日(火)～6日(金) インターンシップ受け入れ
- 9月 6日(金)～8日(日) 平和行動 in 根室/根室市
- 9月 7日(土) 10:00 はたらく女性の集会/グランドメルキュール札幌
- 9月 9日(月) 13:30 会計監査/連合北海道会議室
- 9月10日(火) 7:50 道議会民主道民連合との連携会議/ポールスター札幌
- 9月12日(木) 13:30 第3回最賃対策会議/連合北海道会議室
- 9月13日(金) 9:30 ウポポイ(民族共生象徴空間)視察会/白老町
- 9月20日(金) 13:30 連合第12回中央執行委員会/連合本部
- 9月25日(水) 15:00 連合北海道政治学習会/グランドメルキュール札幌
- 9月26日(木) 8:30 エネルギー・環境視察会/エスコン・苫東
- 9月27日(金) 10:00 第12回執行委員会/ガーデンパレス札幌
- 13:30 第89回地方委員会/ガーデンパレス札幌
- 15:30 第11回地協事務局長会議/ガーデンパレス札幌

こくみん共済 coop ならではの安心・便利!

こくみん Life サポート

安心の保障 / 保障設計サポート
びったりな保障をご案内!

生活応援 / 生活設計サポート
お得なサービスで生活応援!

組合員
特典価格で
ご利用可能



事前の備えに

住宅の
耐震診断



被災後にも安心

住宅修理
工務店での
修理など

組合員サービス「こくみん Life サポート」では、最適な保障選びだけでなく、事前の備え、事後のフォロー、生活全般をサポートします。



ご利用は公式アプリから /

こくみん共済 coop
公式アプリ

右記の二次元コード
からダウンロード!



公式アプリにはマイページへのご登録が必要となります。